



多セクターとの共創による コミュニティの再生

長期的なコミュニティ再生に着手

高槻市を震源とした大阪北部地震発災から2年が経過しました。

大きな損傷を受けた市営富寿栄住宅の全面建替事業と並行して、WAKWAKでは長期的なコミュニティ再生事業を構想、多セクターとの協働により「未来にわたり住み続けたいまち」を創り始めています。

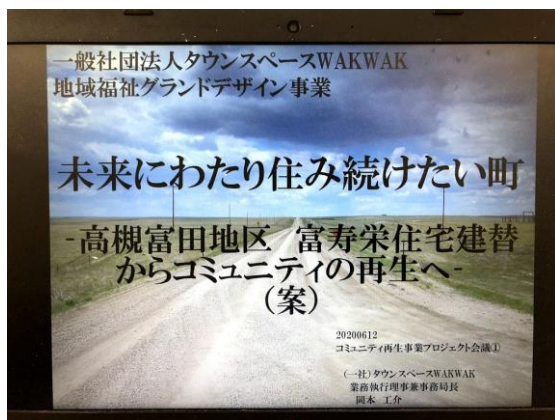
法人の最重点課題として「コミュニティ再生事業」を掲げ、富田地域が長年培ってきた包摂の文化を基盤としながら、国連が提唱する「SDGs」や厚労省が掲げている「地域共生社会」の風をつかみ、多セクターとの共創により社会課題の解決にあたります。

高槻市と連携、地域・家庭・学校・行政・大学・企業など多セクターと協働しながら、ハード・ソフト両面から「誰も取り残さないまち(包摂のまち)の仕組みづくり」を包括的に行うことを目的に「コミュニティ再生(インクルーシブ・コミュニティ)プロジェクト」を6月12日(金)、新たに発足させました。

未来にわたり住み続けたいまちをつくる

コミュニティ再生 インクルーシブ・コミュニティ・プロジェクトが発足

「誰も取り残さない」まちの仕組みづくり



6月12日、第1回プロジェクト会議を発足。午後6時半からZOOMによるオンライン会議形式で行いました。

ここでは、地域団体関係者、校区学校関係者、大阪大学・関西大学・平安女学院大学等の研究者・大学院生、NPO関係団体など約40名もの皆様にご参加いただきました。

プロジェクトの座長に大阪大学大学院教授の志水宏吉先生を選出してご挨拶を受け、参加者の自己紹介、事業のこれまでの取り組み経過と今後の展開・スケジュールについて提案しました。

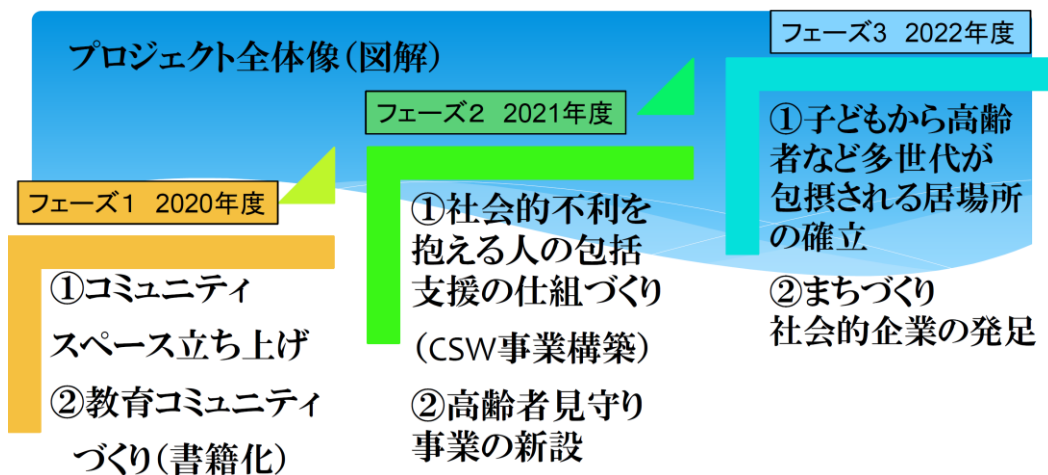
2つのワーキング・グループ

「教育コミュニティ」「コミュニティスペース」の二つのワーキンググループ(WG)も同時に発足。

WGについては、「教育コミュニティ」について高田一宏・大阪大学大学院教授が、「コミュニティ・スペース」についてNPO法人子どもセンターぬつく理事長・森本志磨子弁護士さんがスーパーバイザーに。学識者として、渥美公秀・大阪大学大学院教授、若槻健・関西大学教授、新谷龍太郎・平安女学院大学短期大学部准教授にもそれぞれご支援頂くことになりました。



プロジェクト全体像



インクルーシブコミュニティ・プロジェクト
(多セクターの共創)による解決

11 住み続けられるまちづくりを



01 プロジェクト1「コミュニティ・スペースの創出」

「まちの中に包摂の居場所」

プロジェクト1では、まちづくりの先進地への視察や学習会を通じて、富田地域に一番合う居場所についてプロジェクトで協議。

制度のはざまに陥る子どもたちの居場所や大学生などが育つ場として、民家を改装した「コミュニティ・スペース」を生み出します。



第1回視察学習会として箕面北芝地区に



コミュニティ再生プロジェクトによる第1回視察学習会を7月11日(土)に開催しました。

行先は箕面市北芝地区、受け入れていただいたのは日頃からお付き合いのあるNPO法人暮らしづくりネットワーク北芝のみなさんです。

参加メンバーはプロジェクトメンバーである富田地域関係者、学校の先生方、大阪大学の渥美先生・高田先生はじめ大学院生のみなさんたち16名。

午後1時に箕面市北芝地区のらいとびあ21に集合して自己紹介と今後のプロジェクト全体スケジュールについての確認、意見交換を行い、午後2時から北芝地区現地フィールドワーク。

最初に事務局の丸岡朋樹さん、築瀬健二さんから北芝地区の概要と就労若者支援、地域支えあいプランなど暮らしづくりネットワークと北芝地区でのまちづくりの概要を具体的にガイダンスいただきました。

その後、会場のらいとびあ21から出て現地フィールドワーク。暮らしづくりネットワークの拠点である「芝楽広場」をはじめとするコミュニティマート、住民参加で作られたコミュニティ道路、そして地域の雇用を生み出すための営利事業体「イーチ合同会社」とコミュニティ・スペース「南の家」等を案内いただきました。

コミュニティ・スペースは空き家となった古民家を活用。つぶやき拾いから始まって「人がつながる地域づくり」「この先10年を展望したまちづくり」という言葉が印象的でした。

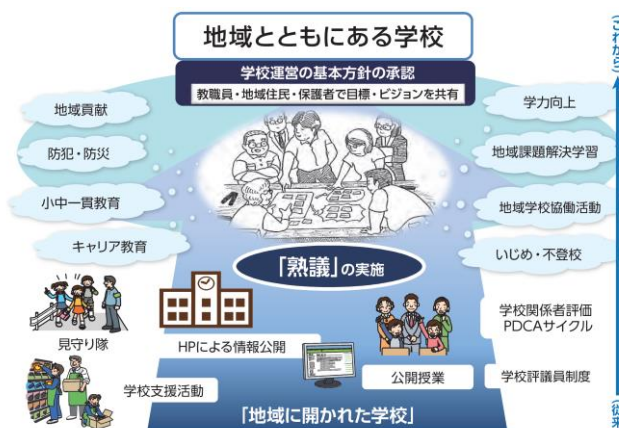


02 プロジェクト2「教育コミュニティづくり」

「教育コミュニティ」

プロジェクト2では、「教育コミュニティ」(阪大大学院教授故池田寛先生提唱)をキーワードに小中学校の総合的な学習の時間「いまとみらい科」の取り組みと地域、大学が協働し、「コミュニティ・スクール」(文科省提唱)の実践モデルをつくります。

また、それを大阪大学等研究者と協働し「書籍化」、「共創知」として全国へと発信します。



文部科学省「コミュニティ・スクール」パンフレット参照

「教育コミュニティ」学習会を開催



6月30日の午後5時半から「教育コミュニティ学習会」を開催。

第1回となる今回は高田一宏・大阪大学大学院教授を講師に招き、「大阪の教育コミュニティづくりの歴史と変遷」を中心にお話いただきました。

オンライン学習会にはWAKWAKスタッフはもちろん、校区の小中学校の先生方に加え阪大・関大・平安女学院大の研究者・院生・学生の皆さんら約40名が参加。

2015年の大阪府社会教育委員会議の提言「だれもが独りにならない地域社会をめざして」をふまえ、小中一貫校化や地域との協働の中で地域と学校との関係はどう変わっていくのかについて問題提起をいただきました。

7月16日(木)午後5時半から志水宏吉・大阪大学大学院教授を講師に招き第2回学習会を開催。

志水先生からは「排除と包摂の概念整理」「マイノリティが自らの気配を消しマジョリティへの同化を期せずして求めようとする日本の学校文化」について問題提起。「排除に抗する学校づくり」と「つながりが生み出す力」と「社会関係資本を活かす教育コミュニティ」についてもお話いただきました。

講演を受けた討議では「虐待ケースなど社会への関わりから疎遠になっている子ども達をどうつなげていくのか」「自立するため安心して依存できる関係をどうつなげていくのか」等の深い議論にも発展しました。



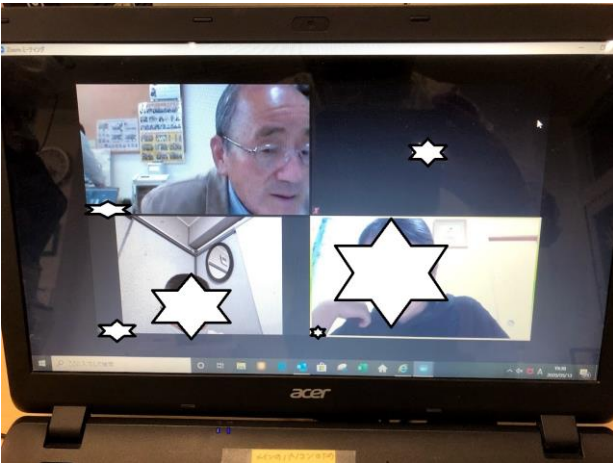
03 新型コロナ禍「緊急支援プロジェクト」

新型コロナウイルスの感染拡大の影響を受け、昨年度下半期事業はいずれも中止せざるを得ない状況が続き、また、同じく法人本体も財政面で大きなダメージを受けていました。

ただ、その中でも多くのSOSが事務所に日々届いている中、「新型コロナウイルス対策緊急支援プロジェクト」を立ち上げ実施しています。



「食・学び・制度の一体的支援の仕組み」



- ① **食の支援**: フードパントリー型富田ただいま食堂
毎週水曜日に富田ふれあい文化センターをお借りして行っていたただいま食堂ですが、現在はM's カフェさんによるお弁当・花パンさんによる食パンを弁当配付型で実施。フードドライブ等による食材提供もあわせて行っています。
- ② **学びの支援**: オンライン学習支援わんぴーす
同じく毎週月・水で行ってきた学習支援について、教員 OB/OG、学生さんの力をお借りしオンライン対面授業を実施しています。また、併せて事務所を媒介に日々の学びの積み重ねをするために週3で学習プリントの添削を実施。
(※現在は対面授業を再開)

③ 制度への伴走支援・心のケア

地域の団体と協働し、特別定額給付金等制度が届きにくい層への手続き等の伴走型支援をするため200世帯にちらしとマスクを配布、すでに手続きの支援を行っています。

④ 緊急時生活支援

こちらは当初の予定にはなかったものの、市内の高校やフードバンクさん等から緊急性の高いケースが入っており、その声に応える形で緊急時生活支援として随時、弁当や食材の提供を行っています。



04

『部落解放・人権研究
奨励賞』受賞

（一社）部落解放・人権研究所の創立 50 周年を記念して創設された「部落解放・人権研究奨励賞」という光栄な賞をいただきました。

論文名は「コミュニティオーガナイズングによる社会変革の共創-高槻富田地区子どもの居場所づくりの取り組み-」。当論文については 10 月発行予定の『部落解放研究』に掲載予定です。

05

内閣府 HP に掲載



子どもの未来応援基金の助成を受け、実施してきた「ただいま～と言える子どもの居場所づくり事業」の実践ですが、この度、『第3回未来応援ネットワーク事業報告書』にご掲載、内閣府子供の貧困対策推進のホームページにもご掲載いただきました。皆様ぜひご覧ください。

info

みなさまへの支援のお願い

当法人の社会貢献事業を持続可能なものとしていくため皆様ぜひ応援してください。

○会員となり応援する-年額(1口)-

正会員(団体) 1万円 (個人)5千円

賛助会員(団体) 1万円 (個人)1千円

お振込先 ゆうちょ銀行 口座記号 00990-6 口座番号 201524

加入者名 タウンスペース WAKWAK

○クレジットカードによるオンライン寄付サービスも導入しています。

(編集後記)

コミュニティ再生事業も第2段階、長期的なコミュニティ再生へと移りました。ここで行おうとするのは、まちづくりの実践とそれを研究としても深めていく「実践と研究の往還」の試みです。皆様の引き続きのご支援をお願い致します。